

## 令和6年度第4回三豊市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会要旨

### 1) 日時

日時：令和7年3月27日（木）午後2時00分から午後3時30分

### 2) 出席者

委員）原委員長、岩倉副委員長、岩本直委員、池田委員、金山委員、岩本仁委員、石井委員、増田委員、西原委員、前川委員（委員計10名）

事務局）立石政策部長、荒脇地域戦略課長、関地域戦略課課長補佐、三録主任

### 3) 議題

- 1 パブリックコメントの実施結果について
- 2 第3期三豊市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン(案)について
- 3 第3期三豊市まち・ひと・しごと創生総合戦略(案)について
- 4 その他

### 4) 配布資料

（資料1）第3期三豊市まち・ひと・しごと創生総合戦略（案）に対するパブリックコメントの実施結果

（資料2）第3期三豊市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン（案）

（資料3）第3期三豊市まち・ひと・しごと創生総合戦略（案）

（資料4）「②小・中学校での教育内容の充実」修正資料

## 5) 会議要旨

(原委員長)

議題1 「パブリックコメントの実施結果について」、事務局より説明をお願いします。

(事務局)

資料1 第3期三豊市まち・ひと・しごと創生総合戦略(案)に対する「パブリックコメントの実施結果」について説明

(原委員長)

ただいまの事務局のパブリックコメントの回答案に関する説明に対し、委員の意見、を伺う。

(金山委員)

K P Iという言葉の意味についてお聞きする。

(事務局)

Key Performance Indicator、日本語では重要業績評価指標。現状値を基準値として数年後の目標値まで高めていくことで事業の効果を測る指標のことである。まだ事業を行っていないため本計画書で基準値が無いもの、また10ページ(2)③「教職員の資質向上」のように、市で取り組むこと、県で取り組むこと、学校で取り組むことと、主体が様々のため、市だけの評価では効果を測ることができず、目標値を設定しないという判断をした取組もある。そのあたりのところがパブリックコメントの意見として指摘があったので、市としての考えを回答案とした。

(原委員長)

読み手である市民にとって、初めて聞く言葉であることを踏まえると、注釈を付けておいた方がいいかもしれない。

(増田委員)

「第3期三豊市まち・ひと・しごと創生総合戦略(案)」において他の用語に注釈はついているが、K P Iについては3ページ、具体的な施策のページの最初に重要業績評価指標(K P I)のとあることから、注釈はつけていないということか。

(事務局)

増田委員のおっしゃる通り。パブリックコメントの回答欄の下部に注釈という形で説明を追記するという対応でいかがか。

(原委員長)

それに加えて「第3期三豊市まち・ひと・しごと創生総合戦略(案)」3ページ 5. 進行管理の文章の中にも、Key Performance Indicator と、重要業績評価指標と記載してはいかが

か。

(事務局)

それではパブリックコメントの回答欄の下部に注釈を付けること、及び資料3「第3期三豊市まち・ひと・しごと創生総合戦略(案)」3ページにもKPIの英語表記及び日本語で重要業績評価指標と記載し、注釈も付けさせていただく。

(岩本直委員)

パブリックコメントの意見4にアンケートの回答率について意見があるが、アンケート調査結果を公開するときは回答数や回答率は公開されているのか。

(事務局)

通常アンケートをした際には、標本数、回答率、回答件数は公表する。そのあたりを意見4の回答に追記することとする。

(原委員長)

回答率をどうすれば上げられるかは課題。今現在は紙によるアンケートを実施しているが、若い層、特に小さい子供を育てる親は空いた時間にスマホで回答する方が多いことから、スマホ対応することも考えられる。しかしそうすると逆に高齢者でインターネットに慣れていない層は回答率が下がる恐れがある。紙と併用するにしてもそれぞれに長所短所があり統一感をどうとるのが悩ましい。高齢の方の回答率の低下を防がなければならず、折り合いを付けるのが難しい。

(事務局)

市で全人口に対するアンケート調査をとる場合、6万人から2,500人を無作為抽出し標本にしている。郵送による回答を依頼しているのがここ最近の通例で、回答数は900から1,000ほど。回答率は3割強から4割弱で推移している。

(原委員長)

高齢者のサポートする上でも、買い物難民というか、外出困難な人が、スマホなりタブレットを使ってオンラインで買い物できるようになれば生活の質を高められる。どうしても紙でなければ回答できない人、紙でもスマホでも回答困難な人も出てくるだろうが、三豊市はDX化を先進的にやっているなので、実際の現場においてどんな工夫をすれば少しでも回答に参加してもらえるかの検討は、一つの大きなテーマ。アンケートのやり方のみならず、生活支援、行政サービスの望ましい在り方を検討する上でも良い素材になるのでは。副委員長はいかがか。

(岩倉副委員長)

委員長の意見に同意する。回答者の年齢層の傾向は？

(事務局)

人口の構成比率に似通っているが、若年層が人口構成比率より少し回答率が悪い。60歳以上の方が人口構成比率より若干回答率が高いという傾向がある。回答率を高めるために子育て層へのサポート、高齢者へのサポートがあればプラスになるのは間違いないが、アンケート結果の信憑性の観点から、どこかの世代の回答率が突出して高いというのをどう捉えるかを検討する必要がある。子育て世代を対象に意見を聞くためのアンケートであれば、その層の回答率が上がるのは良いが、全人口に対するアンケートで偏りがあるのをこちらでどう分析するのかという視点でいくと、調整が難しいところ。回答率が概ね人口構成比率に似通っているということは若い世代の回答数が少ないということ。逆に高齢者の回答率は人口構成比率より若干高く、高齢者の回答の方が多く返ってきているということは、高齢者の意見の方が大きく反映されている形になっているのは事実。今後デジタル化も含めて、どうやってバランスの取れた意見を集めていくのかは大きな検討課題。

(石井委員)

意見4の意味するところは、アンケートがあることを知っていたら自分も回答した、という意味を含んでいるのでは。

(事務局)

そこは費用の面と集計作業の面が課題として大きい。6万人全員に郵送して回答を依頼するのも一つの方法だが、ものすごい作業量が必要になる。一定規模での無作為抽出、郵送によるアンケート依頼が、現在のところ、コストと実施方法のバランスを考えたときに採り得るよりよい手段であると考えます。

(原委員長)

年齢の構成比率に近いサンプル数を得ることで全体の意見、ニアリーイコールのサンプルが得られるので、それをデータ分析すると全数に近いものを得られる。課題としては、積極的な人の意見にバイアスがかかり、いわゆるサイレントマジョリティの意見が相対的に薄まってしまふ、それも一つのバイアスではないか。声をあげようとする方の意見が通り、声をあげようとしない方の意見をどうするか考える必要がある。5年後にはデジタル技術の活用によるコストや手間の削減という点で進歩していると想定されるので、それを目標に全数調査について検討を今から始めるのはいかがか。特に三豊はDXを売りにしている地域。そういう目標を立ててもよいのでは。

ただし全数調査にするとプライバシーの問題が発生し、セキュリティ等の技術的な課題もあるので不利益にならないように配慮する必要がある。

回答としては、現状の説明をすることと、今後多くの人の意見を反映するためにアンケート回答率についても改善を狙っていくことを追記してはどうか。

(岩倉副委員長)

アンケートを行ったときに回答率のパーセンテージは記載されている？

(事務局)

総合計画を策定する際にアンケートしたものについては、無作為抽出 2,500 件、回答数、回答率について公表されていると認識している。それをベースに総合計画を作っている。社会的な項目についてのアンケートは、現在の 30% 台後半の回答率ならば、精度について問題にならない程度の誤差。

(原委員長)

住民の意見を反映させるために、どう改善すれば良いか考えるとき、全数調査の方法を取っても精度に差がないのであれば、アンケートという方法にこだわらず、一人ひとり違う考え、生の声を丁寧に拾う定性的な調査に力点を置くほうが有効である。ただし 100 万人の大都市において全数調査は無理でも、6 万人ならデジタル技術を活用して、頑張って全数調査ができるならやればよいのではないか。一方でアンケート調査のみでは限界があるため、並行してヒアリング等丁寧に対応するほうが実のある施策を議論するための大事な情報が得られる。5 年後に向けた準備をされたい。

(事務局)

(意見をもとにその場で回答案を修正。) 委員のみなさまいかがか。

(委員)

意見無し。

(原委員長)

意見 2 について、小児科病院を設置する計画がないことから、KPI として設定することは適切でないという回答案であるが、今現在子育てしている家族にとって何が問題なのか、何が心配なのかについて委員より意見を伺う。近隣の三豊総合病院や四国こどもとおとなの医療センターとの連携体制がとられていること、安心感という点で、いざ何かの時に、このような医療体制が整っているという情報が充分周知されているかが問題ではないか。委員のみなさまは三豊で生活していてどういうことが心配か。

(西原委員)

子どもを持つ母として、かかりつけ医など安心して子育てできる医療体制をお願いしたい。

(事務局)

市の対応としては、市民病院での平日の小児科開設でもかなり努力した結果である。小児科医の看板を掲げた病院が市内に無いということは分かっているが、そこを増やしていく施策が市町村では難しい。先日の委員長との打ち合わせで、「かかりつけ医のような安心感を」、という意見に答えるために、具体的に書ける内容を追記してお示しし、いろいろな人から医療施設が必要という声は聞こえているが、なんとか市民病院で頑張って、この段階までもって来ているというのが回答になる。

(原委員長)

緊急の場合の対応について、不安を解消するための情報発信に努める。大きな小児科があればビジュアル的に安心感を抱くことができるが、現実的に難しい、それに代替する方法として何かがあるか。安心感を持って子育てができるというところを少しでも満たすための工夫をするということが回答から感じられるとよいのでは。

(事務局)

三観地区で医師会を置いて医療提供体制を敷いている。三豊市内には無いが、隣の観音寺市には専門の小児科があり、広域的に医療を提供していることをポジティブな書き方に変えてもいいのではないかと思う。三豊総合病院も広域連携で夜の救急体制を敷いているのでそのあたりも追記する。

(事務局)

意見2に対する市の回答を直すとなると、再度市役所の各方面と十分調整し確認を取らなければならない。委員長一任とすると、委員の皆さまへの確認が不足すると考えられるため、再度修正しメールなどで内容を確認いただいて、最終は委員長一任という形で意見2に対する回答とさせていただきたい。

(原委員長)

メールによる審議を行うということか？

(事務局)

委員の意見を反映させた回答にするため、再度修正した内容を確認いただいた上で最終決定は委員長の判断を仰ぐという形でいかがか。メールのやりとりの中で皆さんの意見を反映し、最終は委員長一任としたい。

(原委員長)

メールで修正内容を共有し、委員の意見を貰った上で委員長に一任するというのでよろしいか。

(委員)

意見無し

(原委員長)

他に意見はないか。

(池田委員)

資料3「第3期三豊市まち・ひと・しごと創生総合戦略(案)」3ページの4.構成の図のうち、吹き出しのみとよでカナエル、みとよでハジメル、みとよでスマイル、みとよでツナガルの文字の色が白字で、見づらいので修正したほうがよいのではないか。

(原委員長)

細かいことになるが、同じページの三角形の「目標」の文字もズレているので修正いただきたい。

(事務局)

修正する。

(原委員長)

次に、議題2「第3期三豊市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン(案)について」及び議題3「第3期三豊市まち・ひと・しごと創生総合戦略(案)について」、はパブリックコメントによる修正がなく、議題2「第3期三豊市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン(案)について」は特に変更する点がないことから、「第3期三豊市まち・ひと・しごと創生総合戦略(案)」3ページの吹き出し部分の修正及びKPIの注釈を追記することを除き、それぞれ現行案のとおり承認したい。

(委員)

委員承認

(原委員長)

ご承認をいただいたので、第3期三豊市まち・ひと・しごと創生人口ビジョンは原案の通り策定する。第3期三豊市まち・ひと・しごと創生総合戦略は3ページの吹き出し部分を修正し、KPIの注釈を追記し策定する。

最後にその他、委員の皆様から何か協議事項やご意見は。

(委員)

意見無し

(原委員長)

それでは、本日の会議は以上とする。

進行を事務局へお返しする。

(事務局)

最後に立石政策部長より御礼申し上げます。

(立石政策部長)

挨拶(略)

(事務局)

以上を以て第4回三豊市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会を閉会する。

以上